

## インターネットの活用による故郷振興事業計画

市吉 修 2017/7/10

[ofsuarmu@gmail.com](mailto:ofsuarmu@gmail.com)

### 1. 目的

少子高齢化と過疎化、財政不足、集落の消滅等の危機に瀕している地方の農山漁村の再生と発展に寄与する事業を行う。

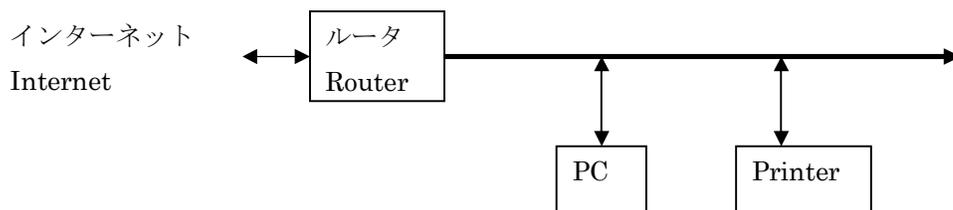
- 1 一人暮らしの老人でも安心して暮らせる村にする。
- 2 村の中と外の世界の交流を盛んにし、地域社会を再生、発展させる。
- 3 人が全国どこでも学び、生涯現役で働ける二十一世紀型産業社会を創造する。

### 2. 村の店と情報センター

\*1 店が無くなってしまった村に村民共営の店を作り情報センターとしても活用する。

\*2 村の情報センター

インターネットと接続できる公民館などの公共の場所にパソコン(PC)、プリンタ(Printer)等の情報機器を設置し村人が共用する。構成を下図に示す。



#1 村人がインターネットに接続して情報収集を行う。

#2 共同でホームページ(HP)を作り、世界に地域情報を発信する。

#3 eメール(インターネットと携帯電話網とも共通)網を構築して情報交換を行う。

目的別の各種グループを作り、グループ一斉通報、定期的お知らせ(メルマガ)の配信等

上の仕組みにより

<1> 度々集まりをしなくても村の中での情報交換を行う事が可能。

<2> インターネットにより村の外、世界中との情報交換を盛んにする事が可能。

<3> 買い物がてらに情報センターに来て利用する事で一人暮らしの村人の安否確認に有効。

<4> 情報センターの担当者がインターネットの使い方の補助、HPとeメールの管理を行う。

村人はインターネットやPCについて知識が無くても利用できる。

### 3. 村内連絡網としての活用

<1> 祭り等の伝統行事、村内清掃や道路の普請等の連絡、打ち合わせ

<2> 農繁期の仕事情報 ---- 田植え、稲刈り、脱穀、農業機械の運用

<3> 冠婚葬祭などの連絡

<4> 行政連絡など----- 都市の自治会回覧板と同様の機能  
上のように昔の結いと同様の事が情報センターの活用により効率的に実施可能。

#### 4. 村内と外の世界との交流網

村には豊かな天然資源があるが、過疎、高齢化のために労働力に乏しい。他方都市では人的資源は豊富であるが自然に乏しい。また非正規雇用の増大による格差拡大が問題化している。そこで都市と農山漁村を結び相互補完が可能なシステムとして次のような事業が有効であろう。

- ◆ 農繁期の仕事情報の発信 ----- 都市の労働力の活用、学生のアルバイト、
- ◆ 夏休みの林間学校、臨海学校等としての活用-----廃校を利用した宿泊施設など
- ◆ 空家等を活用した外来者のための安価な長期滞在システムの提供。
- ◆ 駅前シャッター通りの空き店舗、休耕農地などの共同利用システム

#### 5. 産業振興に活用

##### <1> 資源共用システム

農家の機械貧乏を防止するには資源の共用が鍵になる。これは HP と e メールを用いたインターネットの活用により容易に実効できる。対象としては

- \* 各種農業機械の共同利用----- 使用日程管理、修理、
- \* 長期滞在者用家屋-----空家の保守と利用、
- \* 空き店舗、-----駅前シャッター通りの再活用
- \* 貸し出し用農地、山林原野その他。----- 都市住民の避暑、避寒、息抜きの場として利用

##### <2> SOHO の誘致 (SOHO ; Small Office Home Office; 小規模工房又は在宅で行う事業)

ホームページの制作、ソフトウェアの開発、建物の設計、教育、研究開発、画家、音楽家、文学作家などの知識産業はそれを行う人が村に居住しても実行可能であるがその市場は大半が都市にある。そこで都市に在住する営業者と村に居住する実行者がインターネットで提携して事業を行う SOHO 連合、即ち事業家連合が地域振興に有効であろう。

#### 6. 地域社会の再生と二十一世紀型産業社会

##### <1> 里山の再生

毎年夏に局地的な集中豪雨により山崩れが起こり、河川が氾濫して甚大な被害が生じているがその原因は戦後の大植林により杉が密植され、地面に日が射さないため下草が生えず傾斜地の地面がむき出しになっている事に原因がある。まめに間伐を行い、びっしり下草が生えれば山は雨合羽を着たのと同様になり、集中豪雨時の山崩れを防止できるであろう。日本は全国どこも山なのでこれを実行できるのは各地の住民をおいて他にはいない。即ち全国の地域社会再生が必要不可欠である。

##### <2> 二十一世紀型産業社会

上述のシステムによって田舎と都市を有機的に結び、各地の資源を有効に活用することが可能となる。それは連携と共用のための人間網であり、全国各地の地域社会を再生し、新たな産業社会を実現し、従来の雇用方式の崩壊による格差の拡大問題もより自立的な産業の発展により解消するであろう。より詳細については二十一世紀を楽しく生きよう会の HP を御覧下さい。

<http://www5e.biglobe.ne.jp/~kaorin57/>

( Yahoo や Google で「二十一世紀を楽しく生きよう会」で検索すれば出て来ます。)